



KPMGジャパン 主催

KPMG フォーラム 2016

新経営潮流と
テクノロジーイノベーション



東京

11/24(木)・25(金)
東京ミッドタウン ホール&カンファレンス

名古屋

11/29(火)
大名古屋ビルヂング

大阪

12/12(月)
ホテルニューオータニ大阪

はじめに

KPMGでは、このたび「KPMGフォーラム2016 一新経営潮流とテクノロジーイノベーション」を東京（11月24日、25日）、名古屋（11月29日）、大阪（12月12日）において開催する運びとなりましたので、謹んでご案内申し上げます。

本年6月、政府により閣議決定された「日本再興戦略2016」において、新たな有望成長市場の創出としてIoT・ビッグデータ・AI・ロボットなどを活用した第4次産業革命の実現が掲げられています。同時に、世界の産業構造は大きなパラダイムシフトを迎え、日本においてもイノベーションを経営ビジョンに掲げる企業が増えています。

一方、技術の高度化・複雑化が進み、先端テクノロジーによるイノベーション創出のハードルは、年々高くなり、自社がイノベーションを実現するうえで必要な外部との連携や、近未来の成長をリードするために必要な技術とは何か、どの分野に重点投資するのか、様々な経営判断が求められます。

当フォーラムは、皆様が現在抱えられている、あるいは将来想定される企業戦略策定の一助となるよう、KPMGジャングループが一体となって時節にあったテーマに基づく情報を提供させていただくものです。

特に、イノベーションを創出するための手法については、外部の有識者を招聘したセッションをご用意しております。

また、イノベーションを推進するためのコーポレートベンチャーキャピタルの活用、AIの応用やビジネストランスフォーメーション、グローバル経営におけるビジネス戦略・経営管理やM&A・投資戦略、ガバナンス改革やセキュリティ対応、IFRSやBEPS等の会計・税務上の最新動向等、様々なテーマについて事例を踏まえたセッションを企画いたしました。

いずれも、KPMGの監査、税務、アドバイザリーの3つの分野のプロフェッショナルが、それぞれの専門知識やスキル、グローバルネットワークを活用しながら総力を結集した内容となっております。

ご多忙の折とは存じますが、是非とも内容をご高覧いただき、ご参加賜りますようお願い申し上げます。

KPMGジャパン

10:00	<p>ご挨拶 KPMGジャパン CEO 酒井 弘行</p>				10:00			
10:10	<p>基調講演 P11</p> <p>大企業によるイノベーション創出とコーポレートベンチャーキャピタル (日英同時通訳)</p> <p>SRIインターナショナル イノベーション・リーダーシップ・センター エグゼクティブディレクター クロード・レグリーズ 氏</p>				10:10			
11:10	<p>パネルディスカッション P12</p> <p>テクノロジーからイノベーションへ —いかにして新産業を創出するか— (日英同時通訳)</p> <p>パネリスト</p> <ul style="list-style-type: none"> SRIインターナショナル イノベーション・リーダーシップ・センター エグゼクティブディレクター クロード・レグリーズ 氏 Mistletoe株式会社 代表取締役 CGO 大羅 淳司 氏 株式会社ナインシグマ・ジャパン ヴァイスプレジデント 松本 毅 氏 リバーフィールド株式会社 取締役 川崎 健嗣 氏 <p>コーディネーター</p> <ul style="list-style-type: none"> あずさ監査法人 総合研究所 顧問 伊藤 慎介 				11:10			
12:00	<p>休憩 80 分</p>				12:00			
13:20	<p>1-1 特別セッション P15</p> <p>スタートアップとの連携を見つめ直す イノベーションを どう戦略的に取り込むか</p> <p>500 Startups Japan ジェームズ・ライニー 氏 澤山 陽平 氏</p>	<p>1-2 P16</p> <p>人工知能によって変わる社会と経営 より付加価値を生む ビジネスの必要性</p> <p>KPMGコンサルティング 椎名 茂</p>	<p>1-3 P16</p> <p>「自動運転」社会到来のインパクト 日本の基幹産業の変化が 各産業に及ぼす影響</p> <p>KPMG FAS 井口 耕一</p>	<p>1-4 P17</p> <p>CEOが対峙する経営課題と変革 KPMGグローバル CEO調査で見た 経営者の意識</p> <p>あずさ監査法人 宮原 正弘</p>	<p>1-5 P17</p> <p>「三本の矢」を活用した新規事業戦略の考え方 技術志向型企業の 異業種を横断する事業展開</p> <p>KPMG FAS 岡本 准</p>	<p>1-6 P25</p> <p>コーポレートガバナンス企業価値向上への取り組みと今後の課題</p> <p>KPMGジャパン コーポレートガバナンスCoE 和久 友子 土屋 大輔</p>	<p>1-7 P25</p> <p>内部監査の未来 テクノロジーがもたらす イノベーション</p> <p>KPMGコンサルティング 奥村 優</p>	13:20
14:20	<p>休憩 20 分</p>				14:20			
14:40	<p>1-8 P16</p> <p>日本企業によるコーポレートベンチャーキャピタル(CVC)の活用 海外起業家からの期待 (日英同時通訳)</p> <p>KPMG FAS ポール・フォード</p>	<p>1-9 P16</p> <p>RPA・AI・デジタルレイバーによる企業変革</p> <p>KPMGコンサルティング 田中 淳一</p>	<p>1-10 P18</p> <p>M&Aによる価値創造 減損リスクを超えた M&Aへのアプローチ</p> <p>KPMG FAS 澄川 徹</p>	<p>1-11 P18</p> <p>デジタル時代におけるCIOに求められる役割 KPMGグローバル CIO調査からの考察</p> <p>KPMGコンサルティング 松本 剛</p>	<p>1-12 P18</p> <p>VUCA時代に対応するリーン経営 予測困難な世界における 柔軟な経営スタイルとは</p> <p>KPMG FAS 竹内 浩</p>	<p>1-13 P25</p> <p>コーポレートガバナンス「実効性ある取締役会」の実現に向けて</p> <p>KPMGジャパン コーポレートガバナンスCoE 林 拓矢</p>	<p>1-14 P25</p> <p>実効性ある不正・不祥事の再発防止策 有効な再発防止策の 策定・導入のポイント</p> <p>KPMG FAS 萩原 卓見</p>	14:40
15:40	<p>休憩 20 分</p>				15:40			
16:00	<p>1-15 P17</p> <p>情報技術の進展がもたらす企業組織の変化</p> <p>KPMG FAS 眞野 薫</p>	<p>1-16 P17</p> <p>IBM Watsonを活用した財務会計業務の変革</p> <p>KPMGコンサルティング 林 泰弘</p>	<p>1-17 P19</p> <p>M&Aにおけるサプライチェーン関連リスクへの対応</p> <p>KPMG FAS 岡本 晋</p>	<p>1-18 P20</p> <p>多国籍企業のグローバル税務ガバナンス事例研究 新たな潮流と ベストプラクティス</p> <p>KPMG税理士法人 神津 隆幸</p>	<p>1-19 P18</p> <p>電力・ガス市場改革に向けた新たな経営手法 Commercial Asset Optimization (CAO)</p> <p>KPMGコンサルティング 巽 直樹</p>	<p>1-20 P26</p> <p>コーポレートガバナンス統合報告書のあるべき姿</p> <p>KPMGジャパン コーポレートガバナンスCoE 齋尾 浩一朗</p>	<p>1-21 P26</p> <p>コグニティブサイバーセキュリティ</p> <p>KPMGコンサルティング 小川 真毅</p>	16:00
17:00	<p>17:00</p>				17:00			

10:00	<p>2-1 P21</p> <p>会計基準を巡る最新動向</p> <p>あずさ監査法人 関口 智和</p>	<p>2-2 P21</p> <p>BEPSが日本企業に与える影響 タックスヘイブンを活用した対策等を中心として</p> <p>KPMG税理士法人 高嶋 健一</p>	<p>2-3 P21</p> <p>年金・退職給付制度を巡る最新動向 マイナス金利時代の年金マネジメントと制度選択</p> <p>あずさ監査法人 枇杷 高志</p>	<p>2-4 P19</p> <p>「カーブアウト」を伴うM&A取引における財務デューデリジェンスのポイント</p> <p>あずさ監査法人 伊巻 寛幸</p>
11:00 休憩 20分				
11:20	<p>2-7 P21</p> <p>IFRS第16号「リース」における不動産貸借会計 劇的に変わる会計処理と実務対応方法</p> <p>あずさ監査法人 山本 勝一</p>	<p>2-8 P22</p> <p>バリューチェーン再編と税務対応のポイント BEPS, FTA, TPP等の影響を踏まえて</p> <p>KPMG税理士法人 梅辻 雅春 神津 隆幸</p>	<p>2-9 P28</p> <p>クラウド・トランスフォーメーション最適手法 クラウドサービスの現状と導入アプローチ</p> <p>KPMGコンサルティング 立川 智也 吉田 匡孝</p>	<p>2-10 P19</p> <p>M&Aにおける意思決定プロセスの見える化とデューデリジェンスの活用</p> <p>KPMG FAS 中西 宏</p>
12:20 休憩 60分				
13:20	<p>2-13 P22</p> <p>収益認識に関する包括的な会計基準の開発動向と実務に与える影響</p> <p>あずさ監査法人 荻野 毅</p>	<p>2-14 P22</p> <p>日本における移転価格税制の動向 BEPSにおける実務対応を中心に</p> <p>KPMG税理士法人 角田 伸広 大曲 伸広</p>	<p>2-15 P28</p> <p>デジタル化時代に向けたVOCマネジメントについて</p> <p>KPMGコンサルティング 塩野 拓</p>	<p>2-16 P19</p> <p>PMI 一本来の統合とはどうあるべきか？</p> <p>KPMG FAS 大野 隆司</p>
14:20 休憩 20分				
14:40	<p>2-19 P22</p> <p>IFRSに対応する管理会計のグランドデザイン</p> <p>あずさ監査法人 鳥生 裕</p>	<p>2-20 P29</p> <p>チャイナリスクの再考 日本企業が本当に見るべきこと、備えるべきこと</p> <p>KPMGコンサルティング 足立 桂輔</p>	<p>2-21 P28</p> <p>IoT時代を勝ち抜くためのセールス・トランスフォーメーション アダプティブかつサステナブルな“強い”販売プロセスへ</p> <p>KPMGコンサルティング 佐渡 誠</p>	<p>2-22 P20</p> <p>クロスボーダー・セルサイドM&A取引の留意点</p> <p>KPMG FAS 高梨 壮夫</p>
15:40 休憩 20分				
16:00	<p>2-25 P20</p> <p>事業再生局面で知っておきたい枠組みと論点</p> <p>KPMG FAS 中村 吉伸</p>	<p>2-26 P29</p> <p>注目すべき新興国（イラン、キューバ、スリランカ、CIS） 新たな成長戦略構築のために</p> <p>あずさ監査法人 プラサナ バトカ</p>	<p>2-27 P28</p> <p>テクノロジーが変える人事の意思決定 KPMG Global HR Transformation (人事変革)調査より</p> <p>KPMGコンサルティング 坂東 治忠</p>	<p>2-28 P20</p> <p>海外企業買収後の経営・業務統合実務の留意点 財務会計領域を中心とするクロスボーダーPMI</p> <p>あずさ監査法人 内山 貴史</p>

10:00	<p>2-5 P23</p> <p>財務経理機能の高度化と対応事例 多様化するビジネスへの機動的対応と変革</p> <p>あずさ監査法人 濱田 克己</p>	<p>2-6 P26</p> <p>バックオフィス改革 攻めのリスク管理に向けた勤所</p> <p>KPMGコンサルティング 山口 隆二</p>
11:00 休憩 20分		
11:20	<p>2-11 P24</p> <p>グループ経営を可能にする原価システムの再構築</p> <p>あずさ監査法人 山本 浩二</p>	<p>2-12 P26</p> <p>不正の早期発見のための電子メール監査・調査の実務 重大不正を効率的に予防・発見するために</p> <p>KPMG FAS 林 稔 佐野 智康</p>
12:20 休憩 60分		
13:20	<p>2-17 P24</p> <p>戦略管理会計のあり方 経営戦略のマネジメントツールとしての計画・予算管理</p> <p>あずさ監査法人 鈴木 龍吾</p>	<p>2-18 P27</p> <p>トップダウンの取り組みによる効率的なデータガバナンスの実現</p> <p>KPMGコンサルティング 津田 圭司</p>
14:20 休憩 20分		
14:40	<p>2-23 P24</p> <p>デジタル時代の管理会計最新動向</p> <p>KPMGコンサルティング 中嶋 功</p>	<p>2-24 P27</p> <p>進化するITリスクマネジメント 金融機関での取り組みを中心に</p> <p>KPMGコンサルティング 原田 克樹</p>
15:40 休憩 20分		
16:00	<p>2-29 P24</p> <p>仕先(サプライヤー)の財務管理の重要性 調達サイドに求められる新たな取り組み</p> <p>あずさ監査法人 吉村 嘉隆</p>	<p>2-30 P27</p> <p>重要インフラ産業におけるサイバーセキュリティ 高まる脅威と体制構築における勤所</p> <p>KPMGコンサルティング 西川 陽介</p>
17:00		

10:00	<p>ご挨拶 あずさ監査法人 専務理事 名古屋事務所長 パートナー 横井 康</p>			
10:10	<p>基調講演 P14</p> <p>オープン・イノベーションで切り拓く新たな事業創造 大阪ガスでの新事業事例とナインシグマが展開する How To DoからWhat To Doのオープン・イノベーション</p> <p>株式会社ナインシグマ・ジャパン ヴァイスプレジデント 松本 毅 氏</p>			
11:40	<p>休憩 80 分</p>			
13:00	<p>3-1 P16</p> <p>「自動運転」社会到来のインパクト 日本の基幹産業の変化が各産業に及ぼす影響</p> <p>KPMG FAS 井口 耕一</p>	<p>3-2 P23</p> <p>BEPS新移転価格文書化規定への対応 本邦関連規定の概要および実務対応上の論点解説</p> <p>KPMG税理士法人 川井 健司 奥村 光輝</p>	<p>3-3 P26</p> <p>バックオフィス改革 攻めのリスク管理に向けた勘所</p> <p>KPMGコンサルティング 山口 隆二</p>	<p>3-4 P25</p> <p>コーポレートガバナンス「実効性ある取締役会」の実現に向けて</p> <p>KPMGジャパン コーポレートガバナンスCoE 林 拓矢</p>
14:00	<p>休憩 20 分</p>			
14:20	<p>3-5 P25</p> <p>実効性ある不正・不祥事の再発防止策 有効な再発防止策の策定・導入のポイント</p> <p>KPMG FAS 萩原 卓見</p>	<p>3-6 P23</p> <p>税務当局の租税回避防止に向けた取り組みと最近の課税事例</p> <p>KPMG税理士法人 菅 健一郎 山本 晃義</p>	<p>3-7 P21</p> <p>会計基準を巡る最新動向</p> <p>あずさ監査法人 関口 智和</p>	<p>3-8 P23</p> <p>財務経理機能の高度化と対応事例 多様化するビジネスへの機動的対応と変革</p> <p>あずさ監査法人 吉野 征宏</p>
15:20	<p>休憩 20 分</p>			
15:40	<p>3-9 P19</p> <p>M&Aにおける意思決定プロセスの見える化とデューデリジェンスの活用</p> <p>KPMG FAS 中西 宏</p>	<p>3-10 P22</p> <p>バリューチェーン再編と税務対応のポイント BEPS、FTA・TPP等の影響を踏まえて</p> <p>KPMG税理士法人 梅辻 雅春</p>	<p>3-11 P21</p> <p>年金・退職給付制度を巡る最新動向 マイナス金利時代の年金マネジメントと制度選択</p> <p>あずさ監査法人 枇杷 高志</p>	<p>3-12 P27</p> <p>投資家との対話を通じた経営管理のあり方 資本コストを意識した経営とROICの活用</p> <p>あずさ監査法人 土屋 大輔 KPMG FAS 荒木 昇</p>
16:40	<p>休憩 20 分</p>			
15:40	<p>4-9 P23</p> <p>税務当局の租税回避防止に向けた取り組みと最近の課税事例</p> <p>KPMG税理士法人 菅 健一郎 山本 晃義</p>	<p>4-10 P25</p> <p>コーポレートガバナンス「実効性ある取締役会」の実現に向けて</p> <p>KPMGジャパン コーポレートガバナンスCoE 林 拓矢</p>	<p>4-11 P25</p> <p>実効性ある不正・不祥事の再発防止策 有効な再発防止策の策定・導入のポイント</p> <p>KPMG FAS 萩原 卓見</p>	<p>4-12 P16</p> <p>RPA・AI・デジタルレイバーによる企業変革</p> <p>KPMGコンサルティング 田中 淳一</p>

10:00	<p>ご挨拶 あずさ監査法人 専務理事 大阪事務所長 パートナー 後藤 研了</p>			
10:10	<p>基調講演 P14</p> <p>オープン・イノベーションで切り拓く新たな事業創造 大阪ガスでの新事業事例とナインシグマが展開する How To DoからWhat To Doのオープン・イノベーション</p> <p>株式会社ナインシグマ・ジャパン ヴァイスプレジデント 松本 毅 氏</p>			
11:40	<p>休憩 80 分</p>			
13:00	<p>4-1 P21</p> <p>年金・退職給付制度を巡る最新動向 マイナス金利時代の年金マネジメントと制度選択</p> <p>あずさ監査法人 枇杷 高志</p>	<p>4-2 P23</p> <p>IFRSの最新基準の解説 収益認識とリース会計</p> <p>あずさ監査法人 南原 亨成</p>	<p>4-3 P20</p> <p>海外企業買収後の経営・業務統合実務の留意点 財務会計領域を中心とするクロスボーダーPMI</p> <p>あずさ監査法人 内山 貴史</p>	<p>4-4 P27</p> <p>重要インフラ産業におけるサイバーセキュリティ 高まる脅威と体制構築における勘所</p> <p>KPMGコンサルティング 西川 陽介</p>
14:00	<p>休憩 20 分</p>			
14:20	<p>4-5 P23</p> <p>BEPS新移転価格文書化規定への対応 本邦関連規定の概要および実務対応上の論点解説</p> <p>KPMG税理士法人 細水 兼二郎</p>	<p>4-6 P23</p> <p>財務経理機能の高度化と対応事例 多様化するビジネスへの機動的対応と変革</p> <p>あずさ監査法人 吉野 征宏</p>	<p>4-7 P19</p> <p>M&Aにおける意思決定プロセスの見える化とデューデリジェンスの活用</p> <p>KPMG FAS 中西 宏</p>	<p>4-8 P27</p> <p>投資家との対話を通じた経営管理のあり方 資本コストを意識した経営とROICの活用</p> <p>あずさ監査法人 土屋 大輔 KPMG FAS 荒木 昇</p>
15:20	<p>休憩 20 分</p>			
15:40	<p>4-9 P23</p> <p>税務当局の租税回避防止に向けた取り組みと最近の課税事例</p> <p>KPMG税理士法人 菅 健一郎 山本 晃義</p>	<p>4-10 P25</p> <p>コーポレートガバナンス「実効性ある取締役会」の実現に向けて</p> <p>KPMGジャパン コーポレートガバナンスCoE 林 拓矢</p>	<p>4-11 P25</p> <p>実効性ある不正・不祥事の再発防止策 有効な再発防止策の策定・導入のポイント</p> <p>KPMG FAS 萩原 卓見</p>	<p>4-12 P16</p> <p>RPA・AI・デジタルレイバーによる企業変革</p> <p>KPMGコンサルティング 田中 淳一</p>
16:40	<p>休憩 20 分</p>			

大企業によるイノベーション創出と コーポレートベンチャーキャピタル

11/24(木)
10:10~11:10

(日英同時通訳)

急速な戦略的展望の変化により、わずか数年前のビジネス予測がもはや役に立たなくなっています。先進諸国の高齢化や、様々なサイバー攻撃、安価な遺伝子配列解析、高度な機械学習、知能ロボットなどの普及が、製品テクノロジーやビジネスモデルなどを混乱させています。現在、イノベーションはかつてないほど最も競争力ある武器となっており、その機会に終りがありません。

積極的な起業家や潤沢な資金を有する新企業は、大企業に挑戦することを恐れません。そしてその多くが新しい市場を勝ち取っています。彼らはイノベーションを創造的に活用することで新しい顧客価値を提供し、巨大な会社に成長しています。Amazon、DJI、Intuitive Surgical、楽天、Spiber、Tesla、Uberなどがその例です。

彼らは新技術を使用して顧客のニーズを満たす新しい方法を発見しました。企業において、このような新しい開発を無視することは賢明な選択とは言えません。

昨今、成功メカニズムの一つとして、コーポレートベンチャーキャピタル(CVC)があげられます。優れたCVCプログラムは、コアビジネスにおいて最新の開発から遅れることなく、技術やビジネスモデル、トレンドを学習し、戦略的行動に有効利用されます。計画の修正、新技術、サービスの採用、買収の評価、パートナーシップの構築など多くのことを可能にします。情報に素早くアクセスすることは成功への鍵であり、CVCは将来を見通す効果的な方法を提供します。

セッションのご紹介

クロード・レグリーズ 氏
SRIインターナショナル
イノベーション・リーダーシップ・センター
エグゼクティブディレクター



SRIインターナショナルのイノベーション・リーダーシップ・センターのエグゼクティブディレクターを務め、数多くの民間企業はもとより、スタンフォードMBA、東京大学、パリテックで講義し、イノベーションマネジメントを教えてきた。

また、太陽光発電サービスを担う企業として、大規模な商用ユーザーに向けて電力供給をおこなうクリアスポット・エネルギー株式会社の共同創設者であり会長を兼務。

キャリアをインテルからスタートさせ、同社では、マーケティング、経営全般、およびベンチャー投資を担当し、インテルキャピタルの副社長として、25カ国で150社を超える企業への株式投資を一任されてきた。また、ネットリスト(ナスダック:NLST)、キャメロット情報システム社(ニューヨーク証券取引所:CIS)、サポートソフト(ナスダック:SPRT)を含む、多数の公共機関および民間企業の取締役として活躍。フランス、パリのEcole Nationale Supérieure d'Arts et Métiers(国立高等技術工芸専門学校)にて電気工学の修士号を取得後、カリフォルニア州スタンフォード大学でMBAを修得。また、中国の北京大学において中国語の言語証明書も取得している。

テクノロジーからイノベーションへ

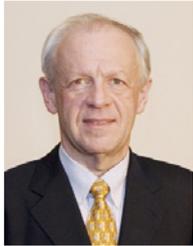
—いかにして新産業を創出するか

(日英同時通訳)

11/24(木)
11:10~12:00

コーディネーター
伊藤 慎介
あずさ監査法人 総合研究所 顧問
株式会社rimOnO(リモノ) 代表取締役社長

パネリストのご紹介



クロード・レグリーズ 氏

SRIインターナショナル
イノベーション・リーダーシップ・センター
エグゼクティブディレクター

SRIインターナショナルのイノベーション・リーダーシップ・センターのエグゼクティブ・ディレクターを務め、数多くの民間企業はもとより、スタンフォードMBA、東京大学、パリテックで講義し、イノベーションマネジメントを教えてきた。

また、太陽光発電サービスを担う企業として、大規模な商用ユーザーに向けて電力供給をおこなうクリアスポット・エネルギー株式会社の共同創設者であり会長を兼務。

キャリアをインテルからスタートさせ、同社では、マーケティング、経営全般、およびベンチャー投資を担当し、インテルキャピタルの副社長として、25カ国で150社を超える企業への株式投資を一任されてきた。また、ネットリスト(ナスダック:NLST)、キャメロット情報システム社(ニューヨーク証券取引所:CIS)、サポートソフト(ナスダック:SPRT)を含む、多数の公共機関および民間企業の取締役として活躍。フランス、パリの Ecole Nationale Supérieure d'Arts et Metiers(国立高等技術工芸専門学校)にて電気工学の修士号を取得後、カリフォルニア州スタンフォード大学でMBAを修得。また、中国の北京大学において中国語の言語証明書も取得している。



まつもと たけし
松本 毅 氏

株式会社ナインシングマ・ジャパン
ヴァイスプレジデント

1981年大阪ガス株式会社入社。凍結粉砕機の開発・事業化。薄膜センサー研究開発。基盤研究所・研究企画リーダー、技術企画室課長。人事部・担当部長として日本初のMOTスクール設立。2002年10月 株式会社アイさぼーと取締役MOT事業本部長。2008年9月 大阪ガス株式会社 オープン・イノベーション担当部長。2010年4月 オープン・イノベーション室長。2016年4月から現職。

特任教授・大阪大学大学院工学研究科オープン・イノベーション教育研究センター(11月から就任予定)
理事・一般社団法人 Japan Innovation Network
委員長・大阪イノベーションハブ(OIH)「大阪市イノベーション促進評議会」
委員・文部科学省 科学技術・学術審議会「総合政策特別委員会」



たいら あつし
大籙 淳司 氏

Mistletoe株式会社
代表取締役 CGO

25年間のテクノロジーおよびコンシューマービジネスの経験。12年間SoftBankに在籍し、創業者である孫正義をサポート、海外事業戦略の責任者としてSoftBankのグローバル化に貢献。インド、東南アジア、USにおいて、JVの組成およびオペレーション、スタートアップの創業および投資などに従事した。その間、SoftBank Mobileの常務執行取締役、Bharti SoftBankのCEO、MySpace Japan CEO、InMobiの取締役、SingtelとのJVの取締役、Yahoo! JAPANのCMOなどを歴任。インドにて現地パートナーと共同創業したHike Messengerは、1億人のユーザーと企業価値\$1.4B。SoftBank以前では、DoCoMo AOLのCMO、Coca-Cola Japanのシニアブランドマネージャ、現在のAccentureの小売、製造流通業の担当コンサルタントとして様々な会社のテクノロジーおよび経営戦略に関わる。



かわしま けんじ
川嶋 健嗣 氏

リバーフィールド株式会社
取締役

基調講演のクロード・レグリーズ氏とともに、オープンイノベーションを大企業・ベンチャー企業の側から実践されてこられた方々、それらの支援を行ってこられた方のそれぞれの具体的な事例を交えて討論いただきます。

1992年 東京工業大学工学部制御工学科卒業。1997年 東京工業大学大学院理工学研究科 制御工学専攻 博士後期課程修了。1997年 東京都立工業高等専門学校 機械工学科 助手。2000年 東京工業大学 精密工学研究所 助教授。2007年~2008年 ワシントン大学 電気工学科 バイオロボティクス研究室 客員研究員 兼務。

2009年~2011年 内閣府 上席政策調査員 兼務。2013年 東京医科歯科大学 生体材料工学研究所 教授 現在に至る。2014年 大学発ベンチャー企業リバーフィールド株式会社設立 現在取締役兼務。

[主な研究分野] 医用システム、ロボット工学、人間機械システム。
[主な受賞歴] 1998年、2006年 計測自動制御学会 論文賞 連運賞。2009年 ファナックFAロボット財団論文賞。

[主な学会活動] 日本フルードパワーシステム学会 理事。日本コンピュータ外科学会 評議員。日本内視鏡外科学会、日本機械学会、計測自動制御学会、精密工学会などの会員。

オープン・イノベーションで切り拓く新たな事業創造

大阪ガスでの新事業事例とナインシグマが展開するHow To DoからWhat To Doのオープン・イノベーション

名古屋 11/29(火)
10:10~11:40

大阪 12/12(月)
10:10~11:40

私は、2008年から大阪ガスグループにおいて、技術開発のスピードアップや効率化のために、自社技術と社外の知見を融合する「オープン・イノベーション」を積極的に推進してきました。2010年に「オープン・イノベーション室長」に就任し、オープン・イノベーションの流れをさらに加速させました。6年間で、外部に354件のニーズを公開し約3,500件の提案があり、そのうち約1,400件を社内に紹介し157件が活用につながっています。その中にはベンチャーとの連携により大きな成果が出ているものも多くあります。

その後、2016年4月1日からナインシグマ・ジャパンに移り、様々な大手企業のオープン・イノベーションを支援しています。従来の「How To Do(目的を達成するためのオープン・イノベ

ション)」においても、多様化、複雑化、難易度の高度化に対応する支援の拡大を図ってきました。また、要請が急増している「What To Do(何をすべきかを定めるためのオープン・イノベーション)」に応えるためにベンチャーの発想・技術・ビジネスモデルを大手企業につなぐ活動もスタートしています。

本講演では、新規事業の実践事例とともに、国内外のオープン・イノベーションの最新動向、さらにベンチャーと大手企業の新たな連携の方向性についてご説明します。

まつもと たけし
松本 毅 氏 株式会社ナインシグマ・ジャパン
ヴァイスプレジデント



1981年大阪ガス株式会社入社。凍結粉碎機の開発・事業化。薄膜センサー研究開発。基盤研究所・研究企画リーダー、技術企画室課長。人事部・担当部長として日本初のMOTスクール設立。2002年10月 株式会社アイさぼーと取締役MOT事業本部長。2008年9月 大阪ガス株式会社 オープン・イノベーション担当部長。2010年4月 オープン・イノベーション室長。2016年4月から現職。
特任教授・大阪大学大学院工学研究科オープン・イノベーション教育研究センター(11月から就任予定)
理事・一般社団法人 Japan Innovation Network
委員長・大阪イノベーションハブ(OIH)「大阪市イノベーション促進評議会」
委員・文部科学省 科学技術・学術審議会「総合政策特別委員会」

スタートアップとの連携を見つめ直す

イノベーションをどう戦略的に取り込むか

1-1 11/24(木)
13:20~14:20

「オープンイノベーション」の掛け声のもと、スタートアップとの連携に取り組む大企業は増えてきましたが、どのように連携すれば良いのかについては手探りの状態が続いています。

500 StartupsとINSEAD*が共同で行った、世界

のトップ企業とスタートアップの連携事例に関する調査をもとに、具体的な「戦略」と「手段」をご紹介します。

* INSEAD ... フランス フォンテーヌブローのビジネススクール

ジェームズ・ライニー 氏 500 Startups Japan
代表 兼 マネージングパートナー



J.P. Morgan在職中に、STORYS.JPを創業。STORYS.JPからは複数の書籍化を実現し、そのうちのひとつである「ビリギャル」はAmazonベストセラー1位、3ヶ月で30万部の大ヒットを記録。その後、DeNAにてベンチャーキャピタリストとしてグローバル投資に従事。投資先には、Andreessen Horowitz、Biz Stone(Twitter共同創業者)、Khosla Impact (Vinod Khosla)、Global Founders Capital(Rocket Internet)、Innovation Endeavors (Eric Schmidt)などとの共同投資先を含む。2015年に\$30M(約34億円)規模のファンドである500 Startups Japanの代表に就任。2016年にForbes Asia 30 Under 30に選ばれる。

さわやま ようへい
澤山 陽平 氏 500 Startups Japan
マネージングパートナー



バイオ→IT→原子力→iBanker→Venture Research→ #500
東京大学大学院 工学系研究科 原子力国際専攻修了。修士(工学)。J.P. Morganの投資銀行部門でTMTセクターの資金調達やM&Aアドバイザー業務に携わった後、野村證券の未上場企業調査部門である野村リサーチ・アンド・アドバイザー(NR&A)にてITセクターの未上場企業の調査/評価/支援業務に従事。2015年12月、500 Startups Japanのマネージングパートナーに就任。
プログラミングを趣味としており、個人としてTechCrunch Tokyo Hackathonに参加し、2014年はTOP5入賞、2015年はIBM賞を受賞したほか、大学時代の友人と「VRミニ四駆」というガジェットを制作しMaker Faire Tokyo 2015に出展するなど幅広く活動。

人工知能によって変わる社会と経営

より付加価値を生むビジネスの必要性

KPMGコンサルティング
パートナー 椎名 茂

1-2 東京 …………… 11/24(木) 13:20~14:20



人工知能によって、社会構造やビジネスのあり方が変わりつつある今日、人工知能がもたらすインパクトを捉えて、マネジメントすることの重要性が増えています。人工知能の研究者でありコンサルタントとして、人工知能の現状と将来展望を、グローバル最先端のトピックスを取り上げながら紹介し、今後の展望に関する最新情報を提供します。

「自動運転」社会到来のインパクト

日本の基幹産業の変化が各産業に及ぼす影響

KPMG FAS
パートナー 井口 耕一

1-3 東京 …………… 11/24(木) 13:20~14:20
3-1 名古屋 …………… 11/29(火) 13:00~14:00



就業人口550万人に及ぶといわれる日本の自動車業界。この基幹産業は、今、大きな変革期にあります。これまでの考え方を大きく変えなければならないイノベーションの波は、各産業にどのように波及していくのでしょうか。本セッションでは、その影響と課題について考察します。

日本企業によるコーポレートベンチャーキャピタル(CVC)の活用

海外起業家からの期待
(日英同時通訳)

KPMG FAS
パートナー ポール・フォード(米国公認会計士)

1-8 東京 …………… 11/24(木) 14:40~15:40



昨今、新規事業開拓に係る開発期間の短縮や事業変革の促進などの理由から、日本企業によるコーポレートベンチャーキャピタル(CVC)の設立が増加しています。本セッションでは、CVCを設立する企業と投資を受ける起業家の双方がWin-Winの関係を築くための留意点、海外起業家からの期待や成功のポイントなどについて解説します。

RPA・AI・デジタルレイバーによる企業変革

KPMGコンサルティング
パートナー 田中 淳一

1-9 東京 …………… 11/24(木) 14:40~15:40
4-12 大阪 …………… 12/12(月) 15:40~16:40



RPA*・AIによる企業トランスフォーメーションの取り組みにおける効果は、従来のBPOやペーパーレス等の効果を大幅に越えたと注目されています。本セッションでは、RPA・AIの概念および経済産業省などの新産業構造ビジョンにおけるそれぞれの位置づけ等を解説するとともに、具体的な導入事例、RPA時代における企業業務のあり方や留意点を解説します。

* RPA …… Robotic Process Automation

情報技術の進展がもたらす企業組織の変化

KPMG FAS
パートナー 眞野 薫

1-15 東京 …………… 11/24(木) 16:00~17:00



AI、IoT、ビッグデータ等の情報技術が急速に進展しています。特にAIは現在人間が担う仕事を代替していくのではないかと、具体的な職種等も挙げながら議論されています。本セッションでは、情報技術の進展の中で、人間にとって仕事とは何か、という根源的な問いから、企業組織への影響まで考察します。

IBM Watsonを活用した財務会計業務の革新

KPMGコンサルティング
ディレクター 林 泰弘

1-16 東京 …………… 11/24(木) 16:00~17:00



AIは、私たちの業務にどのような変化をもたらすのでしょうか。本セッションでは、AI型システムであるIBM Watson*を財務会計業務に適用した場合の改善案について考察するとともに、内部統制、規制への準拠等への活用についても検討します。

* IBM Watson …… 自然言語処理と機械学習を使用して、大量の非構造化データから洞察を明らかにするテクノロジー・プラットフォーム

CEOが対峙する経営課題と変革

KPMGグローバルCEO調査で見た経営者の意識

あずさ監査法人
パートナー 宮原 正弘(公認会計士)

1-4 東京 …………… 11/24(木) 13:20~14:20



KPMGでは、グローバル企業の経営者を対象として、事業環境の変化や事業機会の捉え方についての意識調査を定期的に行っています。本セッションでは、2016年度調査結果から見てきたグローバル企業経営者のイノベーション・破壊的テクノロジー導入の重要性に対する認識の高さと、自社の成長に対する自信の背景について解説します。

「三本の矢」を活用した新規事業戦略の考え方

技術志向型企業の異業種を横断する事業展開

KPMG FAS
パートナー 岡本 准

1-5 東京 …………… 11/24(木) 13:20~14:20



過去最大の内部留保額を計上するに至った日本企業は、守りから攻めに転じ、新規事業を検討する機会が増加しています。本セッションでは、新規事業のフレームワークである「三本の矢(市場／技術／機能)」に着目し、技術志向型企業が異業種の破壊的なテクノロジーを取り込んだ新規事業開発の展開手法について解説します。

デジタル時代における CIOに求められる役割

KPMGグローバルCIO調査からの考察

KPMGコンサルティング
パートナー 松本剛

1-11 東京 …………… 11/24(木) 14:40~15:40



デジタル化の波は多くのCIOにとって、自らの役割を再定義し、テクノロジーが組織全体に価値をもたらす方法を変革するチャンスです。

本セッションでは、KPMGのグローバルCIO調査を元に、CIOの抱える課題とチャレンジについて事例を交えて解説します。

VUCA時代に 対応するリーン経営

予測困難な世界における 柔軟な経営スタイルとは

KPMG FAS
ディレクター 竹内浩

1-12 東京 …………… 11/24(木) 14:40~15:40



デジタルを始めとするテクノロジーの進化、英国のEU離脱等の地政学的変化など、現在は将来を見通しづらいVUCA*時代といわれています。

本セッションでは、無駄を徹底的に排除した「リーン経営」の考え方に基づき、このような環境に対応すべく柔軟な経営を実施している事例を元に要点を考察します。

* VUCA …… Volatility(変動性)、Uncertainty(不確実性)、Complexity(複雑性)、Ambiguity(曖昧性)

電力・ガス市場改革に向けた 新たな経営手法

Commercial Asset Optimization(CAO)

KPMGコンサルティング
ディレクター 巽直樹

1-19 東京 …………… 11/24(木) 16:00~17:00



電力・ガスシステム改革が進展する中で、電力・ガス各社は、拡大する市場リスクに対応するための新たな経営手法を模索しています。

本セッションでは、エネルギー取引市場を活用することで、電力・ガス会社が保有するアセットの全体価値を最適化するCAOという考え方の基本思想と日本における導入のポイントを解説します。

M&Aによる価値創造

減損リスクを超えたM&Aへのアプローチ

KPMG FAS
パートナー 澄川徹

1-10 東京 …………… 11/24(木) 14:40~15:40



日本でも、M&Aは経営戦略実現手段の1つとなっていますが、近年、多額の減損損失の計上事例も散見されます。本セッションでは、減損の生じる典型的なパターンを考察するとともに、M&A戦略立案・実行・投資管理およびエグジツトの各段階において減損リスクを適切に管理し、M&Aによる価値創造を追求するためのアプローチについて解説します。

M&Aにおけるサプライチェーン 関連リスクへの対応

KPMG FAS
マネージングディレクター 岡本晋

1-17 東京 …………… 11/24(木) 16:00~17:00



M&Aによって、企業は新たな競争力の源泉をグローバルサプライチェーン上に得ることができそうですが、同時にそこには買収後の企業価値に影響する多様なリスク要因が存在します。

本セッションでは、買収時に把握すべき対象会社サプライチェーンに潜むリスクを、オペレーション、コンプライアンス、レジリエンスの観点で解説します。

「カーブアウト」を伴う M&A取引における 財務デューデリジェンスのポイント

あずさ監査法人
パートナー 伊巻寛幸(公認会計士)

2-4 東京 …………… 11/25(金) 10:00~11:00



昨今、M&Aにおいて、特定の事業の切出しを指す「カーブアウト」という用語が一般的になりつつありますが、当該取引は通常のM&Aにはない特徴を有し、難易度の高い取引の1つであるといわれます。

本セッションでは、「カーブアウト」を伴うM&A取引の特徴と、それを踏まえた財務デューデリジェンス実務上の留意点について解説します。

M&Aにおける 意思決定プロセスの見える化と デューデリジェンスの活用

KPMG FAS
パートナー 中西宏(公認会計士)

2-10 東京 …………… 11/25(金) 11:20~12:20

3-9 名古屋 …………… 11/29(火) 15:40~16:40

4-7 大阪 …………… 12/12(月) 14:20~15:20



M&Aを成功に導く要因は様々ですが、それらを個別の案件ごとに客観的に把握し、M&Aにかかる経営判断や統合後の実務に活かしていくことが重要です。

本セッションでは、M&Aにかかる意思決定プロセスを可視化し、不確実な環境下における経営判断の精度を向上させるための実務的な手法について考察します。

PMI 一本来の統合とはどうあるべきか?

KPMG FAS
マネージングディレクター 大野隆司

2-16 東京 …………… 11/25(金) 13:20~14:20



ここ数年で、PMI(買収後の統合)の必要性は、随分と認識されるようになってきました。ただ、ややもすれば、「合併」することが目的化してしまい、当初狙ったシナジー効果を楽しんでいない、といった問題も見受けられます。本セッションでは、有効なPMI・統合とはどのようにあるべきかについて、特にイノベーションを起こすという視点から考察します。

クロスボーダー・セルサイド M&A取引の留意点

日本企業によるクロスボーダーM&A取引はバイサイド(買い手)に偏った傾向にありますが、事業環境の変化や戦略見直しの必要性から、今後はセルサイド(売り手)としての取引の検討が必要となるケースも想定されます。本セッションでは、クロスボーダーM&A(セルサイド)案件における留意点について解説します。

KPMG FAS
パートナー 高梨 壮夫

2-22 東京 …………… 11/25(金) 14:40~15:40



事業再生局面で 知っておきたい枠組みと論点

業績不振の事業、グループ会社や取引先の事業再生に取り組むことは、多くの企業にとって一般的になりました。また、業績不振事業・企業を対象とするM&A・業界再編の機会も増えています。本セッションでは、事業再生局面で検討のベースとなる制度的な枠組み、当事者または外部者として検討を進める上でのポイント等を、事例を交えて解説します。

KPMG FAS
パートナー 中村 吉伸(公認会計士)

2-25 東京 …………… 11/25(金) 16:00~17:00



海外企業買収後の 経営・業務統合実務の留意点

財務会計領域を中心とするクロスボーダーPMI

多様化、複雑化するクロスボーダーM&Aに伴い、対応すべき買収後の課題について、日本企業は買収企業との計画的な連携が重要となっています。本セッションでは、買収直後の優先課題となるガバナンス体制の構築、財務経理領域の課題特定、実行を中心としながら、日本の公開企業と海外事業会社との統合実務を解説します。

あずさ監査法人
パートナー 内山 貴史(公認会計士)

2-28 東京 …………… 11/25(金) 16:00~17:00

4-3 大阪 …………… 12/12(月) 13:00~14:00



多国籍企業のグローバル税務 ガバナンス事例研究

新たな潮流とベストプラクティス

BEPS(税源浸食と利益移転)行動計画への対応やパナマ文書により、大企業の税務倫理に対する世間の関心が高まるなか、日系企業においても税務ガバナンスを見直す動きが強まっています。本セッションでは、多国籍企業が採用するガバナンスモデルの新たな潮流とベストプラクティスの事例を紹介し、ガバナンスが影響する税務の論点について解説します。

KPMG税理士法人
パートナー 神津 隆幸(税理士)

1-18 東京 …………… 11/24(木) 16:00~17:00



会計基準を巡る最新動向

IASB(国際会計基準審議会)は、最近、FASB(米国財務会計基準審議会)との間で進めてきたIFRSと米国会計基準とのコンバージェンスに向けた作業について一区切りを付けようとしています。また、我が国でも、企業会計基準委員会(ASBJ)において、日本基準の開発や修正に関する「中期運営方針」に関する検討が行われています。本セッションでは、こうした状況を踏まえ、会計基準を巡る最近の動向について紹介します。

あずさ監査法人
パートナー 関口 智和(公認会計士)

2-1 東京 …………… 11/25(金) 10:00~11:00

3-7 名古屋 …………… 11/29(火) 14:20~15:20



BEPSが日本企業に与える影響

タックスヘイブン対策税制等を中心として

2015年後半にOECDよりBEPS対応の各アクション・プランが発表され、今後はそれに基づいた租税条約および国内法制の改正が予定されています。本セッションでは、OECD諮問委員を務めている講師が、タックスヘイブン対策税制、利子控除制限などの論点を中心に解説し、地域統括会社、グループ金融会社その他に対する影響を考察します。

KPMG税理士法人
パートナー 高嶋 健一
(オーストラリア公認会計士/OECD諮問委員会日本代表委員)

2-2 東京 …………… 11/25(金) 10:00~11:00



年金・退職給付制度を巡る 最新動向

マイナス金利時代の年金マネジメントと制度選択

マイナス金利や運用環境低迷で年金等積立不足が増え、再び企業の負担感が増えています。一方、確定拠出年金法の改正や「第3の企業年金」の導入などの法令改正もなされています。本セッションでは、債務削減策としての制度改訂のポイントや債務管理策としての年金ガバナンス強化、確定拠出年金運営の高度化、海外子会社管理などを解説します。

あずさ監査法人
パートナー 枇杷 高志(年金数理人)

2-3 東京 …………… 11/25(金) 10:00~11:00

3-11 名古屋 …………… 11/29(火) 15:40~16:40

4-1 大阪 …………… 12/12(月) 13:00~14:00



IFRS第16号「リース」における 不動産貸借会計

劇的に変わる会計処理と実務対応方法

本年1月に最終化された新会計基準のもとでは、リースの会計処理は従来から大幅に変わります。本セッションでは、IFRS第16号のもとで、特に大きな影響を受ける不動産賃貸借の会計処理の概要とともに、実務上の留意点につき解説します。また今後生じ得る、不動産賃貸借取引への影響について考察します。

あずさ監査法人
パートナー 山本 勝一(公認会計士)

2-7 東京 …………… 11/25(金) 11:20~12:20



バリューチェーン再編と税務対応のポイント

BEPS、FTA・TPP等の影響を踏まえて

KPMG税理士法人

東京 | パートナー 梅辻 雅春 (公認会計士/税理士/通関士有資格)
 パートナー 神津 隆幸 (税理士)

名古屋 | パートナー 梅辻 雅春 (公認会計士/税理士/通関士有資格)

2-8 東京 …………… 11/25(金) 11:20~12:20

3-10 名古屋 ……… 11/29(火) 15:40~16:40



BEPSの各行動計画や英国のEU離脱、FTA・TPPの進展など、企業グループのバリューチェーンに大きな影響を及ぼす事柄が増えています。

本セッションでは、バリューチェーン再編時に留意すべき重要な税務論点について、法人所得税に加え、関税や間接税等の影響も踏まえ税務面の総合的最適化の取り組みを検討します。

収益認識に関する包括的な会計基準の開発動向と実務に与える影響

あずさ監査法人

パートナー 荻野 毅 (公認会計士)

2-13 東京 …………… 11/25(金) 13:20~14:20



企業会計基準委員会は、IFRS第15号を踏まえた収益認識に関する包括的な会計基準の開発に向けた検討を開始し、適用上の課題等につき意見募集を行いました。本セッションでは、IFRS第15号の適用上の課題としてあげられた論点のうち、実務へのインパクトが大きい論点を取り上げ、基準の概要および業務への影響を解説します。

日本における移転価格税制の動向

BEPSにおける実務対応を中心に

KPMG税理士法人

パートナー 角田 伸広 (税理士/経営法博士)

パートナー 大曲 伸弘 (税理士/公認会計士/米国公認会計士)

2-14 東京 …………… 11/25(金) 13:20~14:20



BEPSプロジェクトにおける行動計画の策定を受けて、日本での移転価格文書化法制の骨格が固まりました。本セッションでは、2016年度税制改正において導入が進められている、行動計画13(移転価格関連文書化の検討)を踏まえた日本企業が対応すべき移転価格実務の課題並びに企業の対応状況について解説します。

IFRSに対応する管理会計のグランドデザイン

あずさ監査法人

パートナー 鳥生 裕 (公認会計士)

2-19 東京 …………… 11/25(金) 14:40~15:40



IFRSを採用したにも関わらず、管理会計での対応を検討しなかったため、財務・管理会計の調整が煩雑になったとの声がよく聞かれます。

本セッションでは、予算管理等の管理会計での対応の必要性を事業環境や経営スタイル等に応じて分類し、いかにしてどのレベルまで高度化すべきかについて考察します。

BEPS新移転価格文書化規定への対応

本邦関連規定の概要および実務対応上の論点解説

KPMG税理士法人

名古屋 | パートナー 川井 健司 (税理士)

シニアマネジャー 奥村 光輝 (米国公認会計士)

大阪 | シニアマネジャー 細水 兼二郎 (税理士)

3-2 名古屋 ……… 11/29(火) 13:00~14:00

4-5 大阪 …………… 12/12(月) 14:20~15:20



OECDによるBEPSプロジェクトの行動計画13「移転価格文書及び国別報告書」の最終報告が2015年10月に公表され、当該報告内容を踏まえた日本における新たな移転価格文書化規定が導入されました。

本セッションでは、日本におけるBEPS新移転価格文書化規定の概要および対応が必要となる事項を紹介するとともに、実務対応上、検討が必要となる論点について解説します。

税務当局の租税回避防止に向けた取り組みと最近の課税事例

KPMG税理士法人

パートナー 菅 健一郎 (税理士)

アシスタントマネジャー 山本 晃義 (税理士)

3-6 名古屋 ……… 11/29(火) 14:20~15:20

4-9 大阪 …………… 12/12(月) 15:40~16:40



国税庁は大企業を対象に、「税務に関するコーポレートガバナンスの充実に向けた取組」を促進しています。また、財務省は、一定の租税回避策をアドバイスした税理士等によるスキームの開示を義務づけることを検討しています。

本セッションでは、税務当局のこれらの取り組みを紹介するとともに、最近の課税報道、判例、裁決等の中から、租税回避と認定された事例を取り上げ、ポイントと留意点を説明します。

IFRSの最新基準の解説

収益認識とリース会計

あずさ監査法人

パートナー 南原 亨成 (公認会計士)

4-2 大阪 …………… 12/12(月) 13:00~14:00



2014年にIFRS第15号「顧客との契約から生じる収益」が公表されましたが、その後一部見直しが行われています。また、2016年には公表されたIFRS第16号「リース」により、借手のほとんど全てのリース契約がオンバランスされることになりました。

本セッションでは、2つの基準について一般事業会社への影響を分かりやすく解説します。

財務経理機能の高度化と対応事例

多様化するビジネスへの機動的対応と変革

あずさ監査法人

東京 | パートナー 濱田 克己 (公認会計士)

名古屋 | パートナー 吉野 征宏 (公認会計士)

大阪 |

2-5 東京 …………… 11/25(金) 10:00~11:00

3-8 名古屋 ……… 11/29(火) 14:20~15:20

4-6 大阪 …………… 12/12(月) 14:20~15:20



ビジネスの多様化、グローバル化に対応するため積極投資を図っている企業においても、経営管理体制の変革は遅れており、経営上の大きな課題と認識されています。本セッションでは、財務経理機能の高度化に向けて、競合他社とのベンチマーク分析および経理機能の評価モデルによるあるべき組織機能検討のポイントについて、先進的企業の最新動向やプロジェクト事例を交えて考察します。

グループ経営を可能にする 原価システムの再構築

あずさ監査法人
マネージングディレクター 山本 浩二(公認会計士)

2-11 東京 …………… 11/25(金) 11:20~12:20



モノづくりを行う企業にとって原価は重要な情報ですが、経営判断に必要な原価情報を適切に把握できないケースも少なくありません。

本セッションでは、グループ経営に必要な原価情報とは何か、そのために作業の自動化と分析の高度化をどう図るか、これを可能にする原価システムの再構築のあり方について解説します。

戦略管理会計のあり方

経営戦略のマネジメントツールとしての
計画・予算管理

あずさ監査法人
パートナー 鈴木 龍吾(公認会計士)

2-17 東京 …………… 11/25(金) 13:20~14:20



企業の成長戦略を成功に導くためには、パフォーマンスを適時適切に評価し、管理することが必要不可欠と考えられています。

本セッションでは、KPI(業績管理指標)の体系的整理および管理手法の高度化を志向される企業に対して、成長戦略を数値的に表す計数管理の手法を明らかにするとともに、その進捗管理手法を考察します。

デジタル時代の 管理会計最新動向

KPMGコンサルティング
ディレクター 中嶋 功

2-23 東京 …………… 11/25(金) 14:40~15:40



デジタル技術の台頭、クラウドシステムなどのIT環境が激変する中で管理会計を巡る状況も大きく変化しています。

本セッションでは、転換期にある新たな管理会計の動向を、英国で2016年4月に世界的な企業から意見を取り入れベスト・プラクティスとして各企業の指針となるべく公表された“世界で最初の”管理会計基準とあわせて考察します。

仕入先(サプライヤー)の 財務管理の重要性

調達サイドに求められる新たな取り組み

あずさ監査法人
パートナー 吉村 嘉隆(公認会計士)

2-29 東京 …………… 11/25(金) 16:00~17:00



経済環境の変化による仕入先の財務内容の急激な悪化は、自社や得意先の経済活動だけでなく、サプライチェーン全体に大きな影響を与える可能性があります。本セッションでは、財務リスク管理の観点から、恒常的な仕入先管理の重要性とコンティンジェンシープランについて事例を交えて考察します。

コーポレートガバナンス 企業価値向上への取り組みと 今後の課題

KPMGジャパン
コーポレートガバナンスCoE
パートナー 和久 友子(公認会計士)
シニアマネジャー 土屋 大輔

1-6 東京 …………… 11/24(木) 13:20~14:20



平成26年改正会社法およびダブルコードにより、企業のコーポレートガバナンスの課題に対する取り組みが進展しています。

本セッションでは、持続的な価値創造のためのインベストメントチェーンの全体最適化という文脈においてダブルコードの意義を確認するとともに、企業価値向上への課題および今後の方向性を考察します。

内部監査の未来

テクノロジーがもたらすイノベーション

KPMGコンサルティング
ディレクター 奥村 優

1-7 東京 …………… 11/24(木) 13:20~14:20



経営環境の変化が恒常化する中で、ビジネスも絶えず変わり続けています。内部監査の将来を考えるときに、この変化に対応することが課題となります。

本セッションでは、ガバナンス改革とモニタリングへの要請への対応、アナリティクス技術の活用、AI化された業務の内部監査など「内部監査の未来」について考察します。

コーポレートガバナンス 「実効性ある取締役会」の 実現に向けて

KPMGジャパン
コーポレートガバナンスCoE
ディレクター 林 拓矢

1-13 東京 …………… 11/24(木) 14:40~15:40

3-4 名古屋 …………… 11/29(火) 13:00~14:00

4-10 大阪 …………… 12/12(月) 15:40~16:40



コーポレートガバナンス・コードの適用開始から1年半が経過し、各企業のコーポレートガバナンス体制に関する取り組みは深化しつつあります。

本セッションでは、各社の取り組みの開示状況について概観するとともに、実効性ある取締役会の実現に向けた「運営」と「人材」に関する課題と対応の方向性について事例を交えて解説します。

実効性ある不正・不祥事の 再発防止策

有効な再発防止策の策定・導入のポイント

KPMG FAS
シニアマネジャー 萩原 卓見

1-14 東京 …………… 11/24(木) 14:40~15:40

3-5 名古屋 …………… 11/29(火) 14:20~15:20

4-11 大阪 …………… 12/12(月) 15:40~16:40



不祥事を起こした場合、事実関係や原因を究明し、再発防止策を検討する必要がありますが、有効な再発防止策の策定に至っていないケースが多いといわれています。本セッションでは、「日本取引所自主規制法人の「上場企業における不祥事対応のプリンシプル」」の内容を踏まえ、実際の事例に触れながら、再発防止策の策定・導入のポイントを解説します。

コーポレートガバナンス 統合報告書のあるべき姿

統合報告書を公表する企業が増えています。これは、コーポレートガバナンス改革の一環で投資家・株主との対話の重要性が謳われる中、開示媒体の1つとして注目されていることが挙げられます。本セッションでは、コーポレートガバナンスと統合報告の関係を整理するとともに統合報告のあるべき姿について考察します。

KPMGジャパン
コーポレートガバナンスCoE
統合報告アドバイザーグループ
パートナー 齋尾 浩一朗 (公認会計士)

1-20 東京 …………… 11/24(木) 16:00~17:00



コグニティブサイバーセキュリティ

標的型攻撃や内部不正など、企業が対策すべきセキュリティ脅威は多様化しており、従来の仕組みでは攻撃の予測や検知、対応が困難になってきています。本セッションでは、企業が組織内外の様々な情報源から得られるデータを集積・解析することでセキュリティ脅威への対応を高度化するコグニティブサイバーセキュリティについて解説します。

KPMGコンサルティング
ディレクター 小川 真毅 (CISSP, CISA, CISM, CBCI, PMP)

1-21 東京 …………… 11/24(木) 16:00~17:00



バックオフィス改革

攻めのリスク管理に向けた勘所

攻めのガバナンス(とくにリスク管理)が企業経営に求められる中で、企業経営者にとってはバックオフィス=管理部門の機能見直しが必要なカギとなっています。本セッションでは、管理部門が主導のテンプレート、意思決定プロセス、および人材育成のあり方などのグローバルマネジメントについて解説します。

KPMGコンサルティング
ディレクター 山口 隆二 (公認会計士)

2-6 東京 …………… 11/25(金) 10:00~11:00

3-3 名古屋 …………… 11/29(火) 13:00~14:00



不正の早期発見のための 電子メール監査・調査の実務

重大不正を効率的に予防・発見するために

第三者委員会や贈賄・カルテルなどの規制当局の調査では、電子メールから重要証拠が発見されるため、平時における電子メール監査・調査の重要性が高まっています。本セッションでは、コンプライアンス体制の高度化や法的危機管理能力の向上のために、電子メール監査・調査を行うためのポイントを実務経験に基づき解説します。

KPMG FAS
マネージングディレクター 林 稔 (公認会計士)
マネジャー 佐野 智康

2-12 東京 …………… 11/25(金) 11:20~12:20



トップダウンの取り組みによる 効率的なデータガバナンスの実現

サプライチェーンとIT技術の進化は、経営判断に活用できるデータが増える一方、重複・未使用のデータも増加し、データ品質と効率性の低下を招いています。本セッションでは、急増するデータ量、高度化するデータ活用の要求に対し、高品質かつ効率的な管理を実現するためのデータガバナンスについて考察します。

KPMGコンサルティング
シニアマネジャー 津田 圭司

2-18 東京 …………… 11/25(金) 13:20~14:20



進化するITリスクマネジメント

金融機関での取り組みを中心に

ITリスクマネジメント領域は、規制の変化、事故の発生、テクノロジーの変化に伴い、年々進化しています。金融機関はIT依存度が高く、規制の影響を大きく受けるためその傾向が顕著です。本セッションでは、トレンドの中心にあるサイバーセキュリティ、グローバルITガバナンス、およびFinTechにおけるブロックチェーン技術等に関連するシステムリスク管理の将来について解説します。

KPMGコンサルティング
ディレクター 原田 克樹 (システム監査技術者, CISA, CISM)

2-24 東京 …………… 11/25(金) 14:40~15:40



重要インフラ産業における サイバーセキュリティ

高まる脅威と体制構築における勘所

サイバー攻撃の高度化と多様化、インフラ制御技術のデジタル化、2020年の東京五輪開催などを背景として、国内の重要インフラ産業に対するサイバー攻撃の脅威が高まっています。本セッションでは、汎用ITと制御システムの違いを念頭に置きながら、セキュリティポリシーの策定から、実際のセキュリティ対策の推進体制の構築まで、一連の流れとポイントを解説します。

KPMGコンサルティング
シニアマネジャー 西川 陽介

2-30 東京 …………… 11/25(金) 16:00~17:00

4-4 大阪 …………… 12/12(月) 13:00~14:00



投資家との対話を通じた 経営管理のあり方

資本コストを意識した経営とROICの活用

コーポレートガバナンス改革により、資本生産性を意識する企業が増加しています。一方で、投資家と企業の間では資本コストの認識が大きく異なっているといった事実も存在します。本セッションでは、投資家との対話を経営管理に生かすといった観点から、資本コストの考え方やROICをどう経営に活用していくのが良いか解説します。

あずさ監査法人
シニアマネジャー 土屋 大輔
KPMG FAS
ディレクター 荒木 昇 (公認会計士, 日本証券アナリスト協会検定会員)

3-12 名古屋 …………… 11/29(火) 15:40~16:40

4-8 大阪 …………… 12/12(月) 14:20~15:20



クラウド・トランスフォーメーション 最適手法

クラウドサービスの現状と導入アプローチ

KPMGコンサルティング
パートナー 立川 智也
ディレクター 吉田 匡孝

2-9 東京 …………… 11/25(金) 11:20~12:20



ネットワーク、分散処理、セキュリティ技術等のIT技術発展の結果、「クラウドサービス」の市場が拡大し、多くの企業ではクラウドの採用や移行に向けた検討が急速に進んでいます。

本セッションでは、クラウドサービスの現状を概観し、クラウドがもたらす企業変革、クラウド導入を成功に導く進め方などを考察します。

デジタル化時代に向けた VOCマネジメントについて

KPMGコンサルティング
シニアマネジャー 塩野 拓

2-15 東京 …………… 11/25(金) 13:20~14:20



企業にはプロダクトやサービスに関する大量・多様なVOC (Voice of Customer) が日々寄せられます。本セッションでは、企業価値向上・競争優位獲得に寄与する有益性の高い「声」を特定し、改善活動のプランニング・実行マネジメントを支援する、標準化モデルの紹介と、デジタル時代に向けた今後のVOC活用方向性を考察します。

IoT時代を勝ち抜くための セールス・トランスフォーメーション

アダプティブかつサステナブルな
“強い”販売プロセスへ

KPMGコンサルティング
パートナー 佐渡 誠

2-21 東京 …………… 11/25(金) 14:40~15:40



モノからサービスへ、対人からデジタルへ、急速に拡大する顧客情報の組織的活用へ、スピーディーかつミニマムコストでそれらを実現する最新テクノロジーの活用要請など、販売部門を取り巻く課題はこれまでに多様化・複雑化しています。本セッションでは、こうした課題を生じさせる社会的潮流への考察を通じて、IoT時代を勝ち抜くための販売・サービスプロセス変革(セールス・トランスフォーメーション)の要諦を解説します。

テクノロジーが変える 人事の意思決定

KPMG Global HR Transformation
(人事変革)調査より

KPMGコンサルティング
ディレクター 坂東 治忠

2-27 東京 …………… 11/25(金) 16:00~17:00



企業が課題の解決・業務の効率化を実現するためには、戦略的人事機能の強化を図る必要があります。本セッションでは、KPMGが行った2016年のグローバル人事の最新動向調査に基づき、グローバル企業のエグゼクティブからの回答を分析し、科学的な意思決定を可能とする最先端の人事情報システムの活用について解説します。

チャイナリスクの再考

日本企業が本当に見るべきこと、
備えるべきこと

KPMGコンサルティング
パートナー 足立 桂輔

2-20 東京 …………… 11/25(金) 14:40~15:40



低成長期を迎えた中国に対してどのように向き合うのか、日本企業の間でもスタンスが割れつつあります。ただ、この問いに適切に答えるためには中国の世界の中での多様な姿を理解しなければなりません。本セッションでは、「中国」に対応して日本企業が出てきていること／いないことを整理するとともに、今後のビジネスモデル再考への処方箋についても検討します。

注目すべき新興国 (イラン、キューバ、スリランカ、CIS)

新たな成長戦略構築のために

あずさ監査法人
マネージングディレクター プラサナ バトカ

2-26 東京 …………… 11/25(金) 16:00~17:00



日本企業の重要な成長戦略として海外事業を拡大していますが、既に中国や韓国企業が席卷している新興市場があることも事実です。本セッションでは、今後日本企業が注目すべき新興国として、イラン、キューバ、スリランカ、CIS*地域に焦点を当て、現状と課題を解説します。

* CIS …… Commonwealth of Independent States 独立国家共同体
ソビエト社会主義共和国連邦を構成していた諸国によるゆるやかな国家連合体
(バルト三国を除く)

開催概要

開催日時	東京 2016年11月24日(木)・25日(金) 10:00~17:00 東京ミッドタウン ホール&カンファレンス 〒107-0052 東京都港区赤坂9-7-1
	名古屋 2016年11月29日(火) 10:00~16:40 大名古屋ビルヂング 〒450-6426 名古屋市中村区名駅3-28-12
	大阪 2016年12月12日(月) 10:00~16:40 ホテルニューオータニ大阪 〒540-8578 大阪市中央区城見1-4-1

受講料 | 無料(事前登録制)

受付開始日 | **2016年10月13日(木) 10:00より**
<http://www.kpmg.com/jp/kpmgf-2016>

- 申込方法
- ・申込受付はウェブサイトからのみとなっております。PCまたはスマートフォンよりお申込みいただけます。
 - ・会員登録およびログインIDを取得の上、お申込みください。
 - ・会員登録は受付開始日より前にお手続きが可能です。事前にご登録されることをお勧めします。
 - ・受付開始日以降、ご関心のあるテーマをご自由にお選びいただき、セッションごとにお申込みください。
 - ・お1人様による同日同時間帯の複数セッションのお申込みはご遠慮ください。
 - ・セッションによって定員数が異なります。

※内容および講師等は都合により変更される場合がございます。
※自然災害等が発生した場合には、開催を延期または中止する場合がございます。

お問合せ先 | **KPMGフォーラム事務局(株式会社ウィズアス内)**
TEL:03-6822-9229(土・日・祝日を除く 平日10:00~18:00)
e-mail:kpmg-forum@withus-inc.co.jp

申込手順



パソコン・スマートフォンから下記URLへアクセス
▶ <http://www.kpmg.com/jp/kpmgf-2016>

QRコードはこちら



STEP1 新規会員登録およびログインIDの取得

1つのIDで複数名のお申込みはできません。お申込者ごとにIDの取得をお願いします。

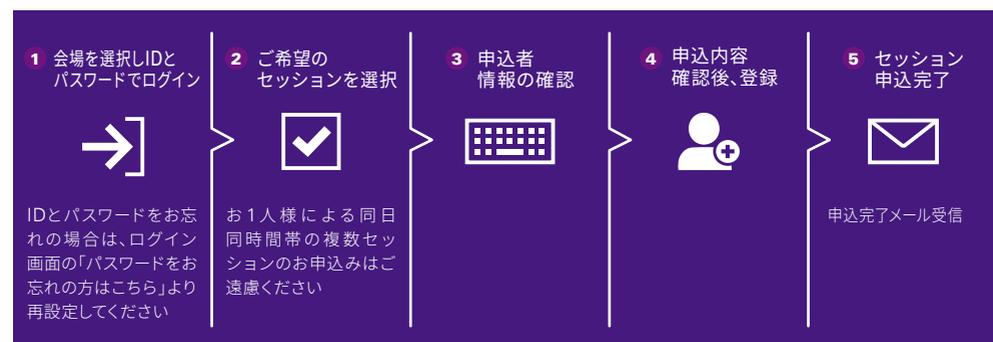
新規会員登録はこちら より入力画面へ進み、①~⑤に沿ってログインIDとパスワードを設定してください



STEP2 セッションの申込

セッションごとにお申込みいただく形式となっておりますので、ご関心のあるテーマをご自由にお選びください。

申込ページはこちら よりログイン画面へ進み、①~⑤に沿ってセッションの申込を行ってください



ご提供いただく個人情報は、KPMG日本のHPに掲載している個人情報保護方針(<http://www.kpmg.com/jp/privacy>)に基づき、①KPMG日本からの有益な情報の提供(サービスのご案内、メールニュースの配信、ニュースレターの配送、セミナー・イベントのご案内や参加のご確認など)、②KPMG日本へのお問合せに関する回答、等に利用させていただく場合がございます。

<http://www.kpmg.com/jp/kpmgf-2016>

©2016 KPMG AZSA LLC, a limited liability audit corporation incorporated under the Japanese Certified Public Accountants Law and a member firm of the KPMG network of independent member firms affiliated with KPMG International Cooperative ("KPMG International"), a Swiss entity. All rights reserved.

The KPMG name and logo are registered trademarks or trademarks of KPMG International.